

石川県における古墳時代研究の動向について(1998~99年)

安中哲徳

はじめに 畿県の富山県ではここ数年、日本海側最大の前方後方墳である柳田布尾山古墳の発見・発掘調査をはじめとして、勅使塚古墳、六治古塚四隅突出型墳丘墓の発掘調査や、富山考古学会などによる各地の古墳墳丘測量調査、富山考古学会創立50周年記念シンポジウム『富山平野の出現期古墳』が行われるなど、弥生時代~古墳時代にかけての墓制や土器編年の研究などが盛んに行われている。

それに比べ、石川県の古墳時代をめぐる研究会活動は近年低調であり、現在古墳文化を学ぶ会や村落遺跡研究会も活動停止状態にあるなど、県内では目立った研究会活動は行われていない。

研究会活動 全国規模の研究会では、1998年には埋蔵文化財研究集会『中期古墳の展開と変革』における北陸各地域の中期古墳の動向をまとめた伊藤雅文⁴⁾による報告や、東日本埋蔵文化財研究会『古墳時代の豪族居館を巡る諸問題』における浜崎悟司²⁸⁾による集成報告がある。1999年には埋蔵文化財研究集会『渡来文化の受容と展開』において北陸の古墳の動向を検討し、南加賀地域を中心に中期から後期への動態を論じた櫻田誠¹¹⁾による報告や、庄内式土器研究会『庄内併行期の土器交流拠点』における安英樹³⁴⁾による報告では、外来系土器の検討から土器交流のモデルが提示された。

講演会 1998年2月に行われた『第8回埋蔵文化財保存協会研究会』は土器の胎土観察をテーマとし、奥田尚⁸⁾と米田敏幸³⁹⁾による研究報告ではこれまでの両氏の研究成果から定説の再検討が促されており、発表後の座談会ではこれからは布留系甕を加賀甕と呼ぼうとする提案もされている。5月に行われた『雨の宮古墳シンポジウム』では中屋克彦²⁰⁾、中司照世¹⁸⁾の基調報告、橋本澄夫²³⁾による記念講演や、和田晴吾、河村好光、福永神哉、佐藤晃一³⁶⁾らを交えた討論から、鹿西町雨の宮1号墳の性格や位置づけ、今後の活用方法などが話し合われた。また、10月に行われた『石川考古学研究会設立50周年記念講演会』では、近藤義郎¹⁶⁾により最古の前方後円墳を追求した氏の最新の研究成果が公表されている。1999年1月に行われた石川考古学研究会新年例会新春シンポジウム『オンドルのある村 - 小松市額見町遺跡と古代の北陸 - 』では、櫻田¹⁰⁾³⁷⁾により三湖台は中央の権力と能美を含む勢力、渡来系の集団によって利用された墓域であるとした報告が行われている。

論文・報告書等 個別の研究では、現在土器の編年研究は一定程度の到達点に達しており、雨の宮古墳関連以外ではあまりまとまったテーマは見られず、個別に既出資料の再確認・再検討と新出資料の位置づけを行っているものが目立つ。1998年には小松市金比羅山古墳の横口式石槨の検討を行った伊藤²⁾による「北陸における終末期古墳の研究」や、県内の前期古墳出土土器の集成と築造時期の位置づけを行った唐川明史¹²⁾による中島町「上町マンダラ2号墳出土土器の編年について」、浜崎²⁷⁾による小松市八幡遺跡における同時存在する建物群の抽出を追求した「2~4世紀の集落の構成について」と、山川史子³⁷⁾による「火化木芯粘土室墳について」での八幡2号墳木芯粘土室の検討がある。また『北陸の考古学』では弥生~古墳時代にかけての木棺墓の型式と変遷の検討を行った前田清彦³¹⁾による「北陸の木棺墓とその展開」、これまで月影期(弥生時代終末)とされてきた七ツ塚1号B墓の築造時期が漆7・8群(古墳時代前期)であるとした木田清¹⁴⁾による「金沢市七ツ塚1号B墓築造時期の再検討」、4~5世紀にかけての土器使用実態の観察から機能論の追求を行った向井裕知³³⁾による「加賀における5世紀の土器様相」などがある。安井重幸³⁵⁾・中屋²²⁾・橋本²⁴⁾らにより『史跡雨の宮古墳群整備事業報告書』が刊行され、調査成果と被葬者像について検討が行われている。他にも中屋²¹⁾による「石川県雨の宮1号墳の発掘調査」、橋本²⁵⁾による「石川県雨の宮古墳群と小田中親王塚古墳」もある。古屋紀之³⁰⁾は「墳墓における土器配置の系譜と意義 - 東日本の古墳時代の開始 - 」に

おいて、東日本の古墳成立を明らかにする目的から墳墓出土二重口縁壺の編年及び土器配置の類型化を行い、北陸の古墳についても検討しており注目できる。秋山進午は¹⁾「變鳳鏡について」の中で七尾市国分尼塚古墳報告書考察の一部として、中国・朝鮮・日本出土の變鳳鏡を集成し分類を行っている。今井淳一⁶⁾は「古墳時代後期における邑知潟周辺の動向」の中で邑知潟周辺における生産地に対する消費地での食膳具消費状況を分析し、羽咋市新保ゼンボン古墳群の位置づけを行っている。1999年には『金沢市史』資料編¹⁹⁾考古が刊行され、伊藤雅文・出越茂和⁵⁾により古墳時代の市内主要遺跡の集成と解説が行われている。さらに伊藤⁹⁾は「金沢市域を中心とする古墳時代首長の動向について」において市内の古墳の動向をまとめており、出越¹⁷⁾は「金沢平野における南北地域差」の中で、金沢平野出土の外来系土器の検討を行っている。また、北陸の古墳時代の対外交流について検討を行った中司¹⁹⁾による「石川県下の古墳と対外交渉」や須曾蝦夷穴古墳の被葬者像について検討を行った橋本²⁶⁾による「石川県須曾蝦夷穴古墳」がある。麻柄一志³²⁾は「焼かれた村 - 北陸地方の火災住居について - 」で北陸の火災住居の集成を行っている。今井⁷⁾は「古墳時代前期における邑知潟周辺の動向 - 太田ニシカワダ遺跡のまとめにかえて - 」の中で邑知潟周辺の平地建物の変遷と検討を行っている。また羽咋市太田ニシカワダ遺跡出土の古墳時代前期の土師器群に、祭祀用と考えられる黒色漆塗土器が80点以上含まれていたことも確認されている。林大智²⁹⁾による「石川県における農具の鉄器化と手工業生産の導入について」では、弥生～古墳時代後期にかけての鉄製農具の変遷と画期及び手工業生産との関わりからその社会的・政治的背景について考察し、手工業生産の導入展開が流通の新たなネットワークを作り出し、地方の政治秩序の再構築を引き起こしたことを明らかにしており興味深い。

発掘調査 古墳の調査では、1998年には小松市教委¹⁵⁾により小松市矢田借屋古墳群の調査が行われ、6世紀前半とみられる9号墳の木芯粘土室墳から須恵器や土師器、ガラス小玉、菅玉、鉄製の鹿角装刀子、鉄鎌、鉄滓が、周溝からは土師質と須恵質の円筒埴輪が見つかっている。1997年から河村¹³⁾や金沢大学考古学研究会を中心とした川田古墳群発掘調査団による鳥屋町川田古墳群の発掘調査が始まられ、1999年の川田ソウ山1号墳の発掘調査では墳形や墳丘規模が確認されている。1999年には県埋文センターにより小松市ブッショウジヤマ古墳群の調査が行われ、6世紀中頃と思われる2号墳の木芯粘土室墳からは、須恵器や鉄劍、刀子、鉄鎌などが見つかり、入り口も確認されている。羽咋市教委により行われた羽咋市ヤッキヤマ古墳の調査では、5世紀前半とみられる輝石安山岩の板石を使用した箱形石棺から人骨、鉄製の鹿角装劍、刀子、鉄鎌が見つかっている。古墳の発掘調査量は増加しており、今後調査成果の評価・位置づけが期待される。集落の調査では、1998年に県埋文センターにより羽咋市四柳ミッコ遺跡の調査が行われ、5世紀後半の鉄鍛冶工房跡が確認されている。99年に高松町教委により行われた弥生時代終末～古墳時代初頭にかけての大集落である高松町ハカド遺跡⁹⁾の発掘調査では、竪穴建物跡や掘立柱建物跡などが100棟以上確認され、金沢大学考古学教室や県内各有志連による協力も多数得られている。その他、県内の発掘調査の動向については、「石川考古学の動向（1998～99年）」『石川考古学研究会々誌』第43号2000に詳しいのでそちらを参照されたい。

史跡整備 1994年から着手されていた鹿西町雨の宮古墳群の整備事業³⁵⁾が完了し、1998年5月には鹿西町主催による上記のシンポジウム³⁶⁾が開催され、7月からは全6回の古墳教養講座も行われた。能登島町では1998年8月蝦夷穴歴史センターが完成し、同古墳や町内から出土した遺物が展示されている。鳥屋町でも川田古墳群の整備事業が進む一方、寺井町秋常山古墳群では1999年1月の国指定史跡化を受け、史跡公園化へ向けた整備計画の検討が本格化している。

展示会 1998年8月の石川県埋蔵文化財センターオープン記念特別展『北陸と出雲の古代文化交流展』では、北陸と出雲の子持壺や双龍環頭大刀の比較が行われている。1999年4～6月の小松市立博物館

『こまつ・発掘・発見！最前線 - 地中の都市・もうひとつの小松 - 』では保存処理が終了した小松市八里向山F遺跡7号墳出土の鉄製横矧板鋲留式短甲が展示され、7～8月に県七尾美術館で行われた『能登の古墳文化 - 七尾鹿島地域の遺跡を中心に - 』では、七尾市国分尼塚1・2号墳や鹿西町雨の宮1号墳、羽咋市滝3号墳・柴垣円山1号墳をはじめ多数の古墳出土遺物の展示が行われた。

おわりに 古墳研究を志す若手の一人としては、これまで何もしてこなかった自分の怠慢さに頭を抱えるばかりである。自分に課せられた課題は山ほどあり、何から手をつけていいか正直迷うところではあるが、まずは地道に基礎資料を集めていきたいと思う。また、同僚の富田和氣夫らと未測量の前方後円墳である押水町竹生野天皇山1号墳の測量を計画しており、多くの人に参加していただきたい。

なお、失礼ながら文章中における敬称は省略させてもらった。また、なるべく多くの研究を紹介したつもりであるが、浅学により漏れてしまった内容・文献も多数あると思われる。今からでも御教授願えれば幸いである。紙幅の都合上、今回は各研究についての批評は行っておらず今後の課題である。

石川県古墳時代関連文献一覧（1998～99年）

- 1)秋山進午 1998 「夢鳳鏡について」『考古学雑誌』84巻第1号
- 2)伊藤雅文 1998 「北陸における終末期古墳の研究」『網干善教先生古稀記念考古学論集』
- 3)伊藤雅文 1998 「金沢市域を中心とする古墳時代首長の動向について」『市史かなざわ』第5号
- 4)伊藤雅文 1998 「北陸の古墳時代中期首長墓について」『中期古墳の展開と変革 - 5世紀における政治的・社会的变化の具体相（1）』埋蔵文化財研究会
- 5)伊藤雅文・出越茂和 1999 「古墳時代」『金沢市史』資料編19 考古
- 6)今井淳一 1998 「古墳時代後期における邑知潟周辺の動向」『新保ゼンポン古墳群』羽咋市教育委員会
- 7)今井淳一 1999 「古墳時代前期における邑知潟周辺の動向 - 太田ニシカワダ遺跡のまとめにかえて - 」『太田ニシカワダ遺跡』羽咋市教育委員会
- 8)奥田 尚 1998 「砂礫觀察から見た土器胎土分析の現況」『庄内式土器研究』庄内式土器研究会
- 9)折戸靖幸 1999 「高松八カド遺跡発掘調査概要報告」『石川考古』第255号石川考古学研究会
- 10)樺田 誠 1999 「古墳時代の江沼・三湖台古墳群成立の背景 - 」石川考古学研究会新年例会新春シンポジウム
『オンドルのある村 - 小松市額見町遺跡と古代の北陸 - 』発表要旨
- 11)樺田 誠 1999 「北陸における古墳時代中期の様相 - 南加賀地域の事例を中心として - 」
『渡来文化の受容と展開 - 5世紀における政治的・社会的变化の具体相（2）』埋蔵文化財研究会
- 12)唐川明史 1998 「上町マンダラ2号墳出土土器の編年について」『上町マンダラ2号墳発掘調査報告書』中島町教育委員会
- 13)河村好光 1999 「鳥屋町川田ソウ山1号墳の墳丘調査」『石川考古』第254号石川考古学研究会
- 14)木田 清 1998 「金沢市七ツ塚1号B墓築造時期の再検討」『北陸の考古学』石川考古学研究会
- 15)小松市教育委員会 1999 「矢田借屋9・10・11号墳の調査」『小松市埋蔵文化財だより』第9号
- 16)近藤義郎 1998 「前方後円墳の誕生」『北陸の考古学』石川考古学研究会
- 17)出越茂和 1999 「金沢平野における南北地域差」『戸水遺跡群 戸水ホコダ遺跡』金沢市埋蔵文化財センター
- 18)中司照世 1998 「雨の宮と古墳時代前期の北陸」『雨の宮古墳公園完成記念 古墳シンポジウム』
- 19)中司照世 1999 「石川県下の古墳と対外交渉」『金沢市史会報』Vol.8
- 20)中屋克彦 1998 「雨の宮1号墳の発掘調査」『雨の宮古墳公園完成記念 古墳シンポジウム』
- 21)中屋克彦 1998 「石川県雨の宮1号墳の発掘調査」『古代』第105号早稲田大学考古学会
- 22)中屋克彦 1998 「考古学的調査の概要」『史跡雨の宮古墳群整備事業報告書』鹿西町教育委員会
- 23)橋本澄夫 1998 「雨の宮1号墳の被葬者像を探る」『雨の宮古墳公園完成記念 古墳シンポジウム』
- 24)橋本澄夫 1998 「雨の宮1号墳の被葬者像（まとめにかえて）」『史跡雨の宮古墳群整備事業報告書』鹿西町教育委員会
- 25)橋本澄夫 1998 「石川県雨の宮古墳群と小田中親王塚古墳」『季刊考古学』第65号
- 26)橋本澄夫 1999 「石川県須曾蝦夷穴古墳」『季刊考古学』第68号
- 27)浜崎悟司 1998 「2～4世紀の集落の構成について」『八幡遺跡』(社)石川県埋蔵文化財保存協会
- 28)浜崎悟司 1998 「石川県」『古墳時代の豪族居館を巡る諸問題』東日本埋蔵文化財研究会
- 29)林 大智 1999 「石川県における農具の鉄器化と手工業生産の導入について」『農工具』石川県考古資料調査・集成事業報告書
石川考古学研究会
- 30)古屋紀之 1998 「墳墓における土器配置の系譜と意義 - 東日本の古墳時代の開始 - 」『駿台史学』第104号
- 31)前田清彦 1998 「北陸の木棺墓とその展開」『北陸の考古学』石川考古学研究会
- 32)麻柄一志 1999 「焼かれた村 - 北陸地方の火災住居について - 」『考古学に学ぶ - 遺構と遺物 - 』同志社大学考古学シリーズ
- 33)向井裕知 1998 「加賀における5世紀の土器様相」『北陸の考古学』石川考古学研究会
- 34)安 英樹 1998 「北陸に於ける土器交流拠点」『庄内式土器研究』「庄内併行期の土器交流拠点」庄内式土器研究会
- 35)安井重幸ほか 1998 「史跡雨の宮古墳群整備事業報告書」鹿西町教育委員会
- 36)安井重幸ほか 1998 「雨の宮古墳公園完成記念 古墳シンポジウム」鹿西町・古墳シンポジウム実行委員会
- 37)安中哲徳 1999 「樺田報告「古墳時代の江沼・三湖台古墳群成立の背景 - 」」『石川考古』第252号石川考古学研究会
- 38)山川史子 1998 「火化木芯粘土室墳について」『八幡遺跡』(社)石川県埋蔵文化財保存協会
- 39)米田敏幸 1998 「胎土觀察と庄内式土器の研究」『庄内式土器研究』庄内式土器研究会